

# 住まい方に関する 愛媛県からの新たな提案

愛媛県住生活基本計画(平成29年3月)より

愛媛県の隅から隅まで、赤ちゃんからお年寄りまで、  
みんなの愛顔がもっともっとあふれるように、  
未来に向けた、こんな物語を一緒に描きませんか？

## 愛媛県住生活基本計画における基本目標（抜粋）

## ○住まい・まちづくりへの意識の向上（基本目標Ⅶ）

ライフスタイルや価値観にあった住宅を確保するために、多様な情報から適切な住宅を選択することや、質の高い住宅の建設や改修を行うこと、住宅の省エネ化や資源・建材のリユース・リサイクルを推進することについて基本的な知識を得るなど、個々の住宅が地域を形成する資源であると共に、次世代へ引き継ぐべき財産であるという意識が醸成され、また、少子・高齢化や人口減少、防災・減災等の課題に対して、県民自身が持続可能な住まい・まちづくりに主体的に関与することのできる社会を目指す。

人口減少

少子・高齢化

空き家の増加

ライフスタイルや  
価値観の多様化

etc

良質な住宅を  
長く大切に使う

1

住宅を  
次世代に  
引き継ぐ

2

ライフステージに  
応じた住宅に  
住替える

3

# 1. 良質な住宅を長く大切に使う

すでに住宅量は充足しており、今後の人口減少等も勘案すると、これまでの「住宅を作っては壊す」社会から、「いいものを作って、きちんと手入れして、長く大切に使う」社会へと移行することが重要である。



## 参考

現在でも、「長期優良住宅」の認定を受けた住宅については、あらかじめ作成した維持保全等に関する計画に従い、点検や調査を実施して、必要に応じ修繕を行う義務があります。

## 2. 住宅を次世代に引き継ぐ

「住宅すごろく」と言われるように、一昔前は庭付き一戸建てや、ファミリー向けマンションを購入すると、その住宅が『終の棲家』として“あがり”とされていた。

しかし、未来に向け、「住まい」や「まち」を持続可能なものにしていくためには、次にその住宅を使用する人のことも考えて住まうことが重要である。



### 参考

住宅は個人の財産ではありますが、大きい目でみれば、まち全体がみんなの共有物とも言え、これらの意識が醸成することで、「人與人」「人とまち」とのつながりが強くなるとも考えられます。

### 3. ライフステージに応じた住宅に住替える

高齢者が元気に安心して暮らせるまちにすると共に、次世代を担う子どもたちにとっても魅力あるまちにする必要がある。

加齢による身体機能の変化や世帯構成の変化に応じ、購入した住宅を売却して、より利便性の高い地域へ移り住んだり、世帯人数に見合う規模の住宅に住替えたりする生活スタイルが根付けば、まちの中に循環が生まれ、その結果まちの活性化が進む。

